



学校だよりNO29

令和4年11月25日

児童数 485人

薫っ子 II



文責 校長 古川 次男

一中学区地域学校保健委員会から

16日(水)に、標記の会議が開催されました。本校、開成小学校、大成小学校、柴宮小学校そして郡山第一中学校の5校によるオンラインでの開催でした。

本校からは、学校内科医と学校歯科医、校長・教頭・保健主事・養護教諭・栄養教諭・生徒指導主事・体育主任・給食主任、PTAから会長・3名の副会長・厚生委員長が参加しました。

「子どもたちのけがの発生状況を知り、事故を防止する」のテーマの下、当番校である大成小学校の養護教諭から5校のけがの発生状況について報告がありました。特に「小学3年生のけがが多い」という点に着目していました。3年生は、コロナ禍となった過去2年間十分な教育活動を実施できていない点も、その理由になるのではないかと考察していました。次に、体育主任から体力テストの結果からの報告がありました。残念ながら、運動能力の点からは、「全国平均を下回っている」ことが報告されました。その後、各学校での話し合いとなりました。

本校の話し合いでは、まず資料を基に養護教諭から本校のけがの発生状況を説明いたしました。保健室への来室状況をまとめ、「1日平均10名前後」の来室者のあることが報告されました。月別のけがの来室は、「6月が1番多く232件」ありました。月別の内科の来室は、「10月が1番多く171件」ありました。

本校でも、けがが多いのは3年生でした。2校時の休み時間などを見ていると、率先して校庭に出てくるのは3年生です。ドッジボールをしたり、鬼ごっこをしたり楽しそうに遊んでいる姿をよく見かけます。外で遊ぶ割合も多い3年生は、けがをする割合も必然的に多くなることでしょう。けがの種類としては、「擦過傷(すりきず)」と「打撲」で約半数を占めるようです。3年生のけがが多いということは、裏を返せば、積極的に外遊びをしている証拠かなと思います。さほど大きなけがにつながってはいないので、今後も外遊びに励んでほしいと思います。

内科の来室は、寝不足による「体調不良」と心理的なものによる「頭痛」「腹痛」が多いようです。生活リズムの改善などによって、取り除くことができそうです。

PTAの方々からは、「コロナ禍で、外で遊ぶ機会は減っている。」という、正直な意見が聞かれました。「まだ、自転車の補助輪が外せないでいます。」などの声も聞かれ、下校後の子どもたちの生活についても、家庭の協力の必要性を実感する場となったことでしょう。

学校側からも、「交通安全教室で、自転車を持ってこない子が多くてびっくりしました。」などの話があり、コロナ禍による具体的な弊害を感じることができたと思います。

運動する楽しさを味わいながら体力が向上できれば何よりです。学校でも、体育の時間を始めとして体力向上に向けて継続的に取り組んでいきたいです。ご家庭でも、お子さんといっしょになわとび運動に取り組むなど、継続的に体力づくりに取り組んでいただければ幸いです。

令和5年度は、この会議の当番が本校となる予定です。テーマや開催方法などについて、今後検討してまいりたいと思います。皆様のご協力よろしくお願いいたします。

